

## 2 柿崎地域

### 1) 地域の概要

#### ①位置及び都市計画上の位置づけ

- ・柿崎地域は、上越市の北東部に位置し、日本海と並行する一般国道8号、北陸自動車道や柿崎駅を中心に市街地が形成されている地域です。
- ・本地域の西部は昭和54年12月に柿崎都市計画区域（非線引き\*：市街化区域\*と市街化調整区域\*の区域区分を行わない区域）として当初編入指定され、一部に用途地域\*が定められています。また、本地域の東部は都市計画区域外になっています。

#### ②まちの変遷

- ・本地域は、江戸時代には北国街道の宿場町として栄えてきました。
- ・明治時代に信越本線が全通して以降、農業や漁業の振興が図られ、また工場の誘致、県立高校や県立病院の設置などが進み、頸北地域の経済・産業・文化の中心のひとつとして栄えてきました。

#### ③交通ネットワーク

- ・本地域には、地域西側を日本海に沿って北陸自動車道、一般国道8号が横断しており、合併前上越市や柏崎市方面、糸魚川市方面などとの交流・連携を支える広域ネットワークとして重要な路線となっています。
- ・本地域と周辺地域をつなぐ主な道路として、一般国道8号、一般県道犀潟柿崎線、主要地方道新井柿崎線、主要地方道柿崎牧線、主要地方道柿崎小国線が通っています。これらの道路は、本地域と各拠点間との交流・連携を支える幹線道路\*として、地域住民の日常生活や産業振興などを支える重要な路線となっています。
- ・本地域には北陸自動車道柿崎インターチェンジが配置され、本地域と市内外をつなぐ結節点として機能しています。
- ・本地域には、JR信越本線の柿崎駅・上下浜駅があり、直江津方面や長岡市・新潟市方面を連絡しています。
- ・本地域には、路線バス（一部、デマンド運行区間を含む）が運行しており、浜線が直江津方面を連絡しています。このほか、山直海線や黒岩線などが運行しており、地域内及び隣接地域を連絡しています。

#### ④地域資源

- ・市街地には、バスケットコートが複数面とれるメインアリーナなど多様なスポーツで利用できる柿崎総合体育館や照明付き屋外運動場を含む柿崎総合運動公園、柿崎中央海水浴場、柿崎マリンホテルハマナス、ゴルフ場などがあります。また、柿崎海岸は柿崎海岸自然環境保全地域となっています。

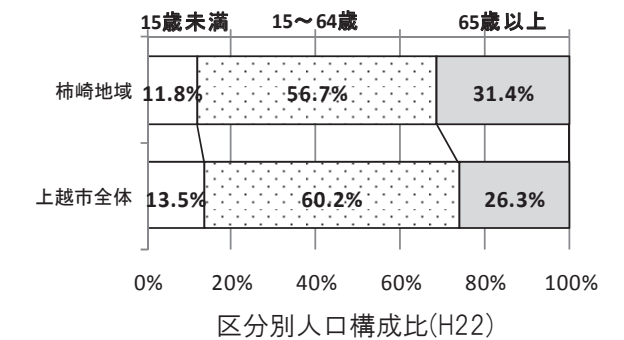
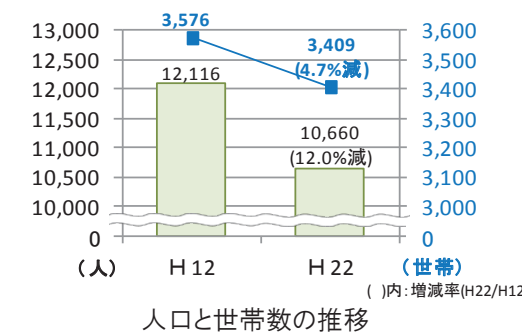
- ・田園地域には、米山からの水源により一面に広がる農地からなる田園景観があります。
- ・中山間地域には、霊峰米山（標高993m）を中心に、佐渡弥彦米山国定公園及び米山福浦八景県立自然公園が広がります。また、名水百選の大出口泉水、柿崎川ダムなどの水に関わる資源があります。
- ・本地域には、刺網漁が盛んな柿崎漁港があります。



柿崎総合運動公園



米山と田園景観



#### 柿崎地域に関するデータ

- 総面積：約 85 km<sup>2</sup>（約 9%）
- 総人口：10,660 人（約 5%）
- 世帯数：3,409 世帯（約 5%）
- 15歳未満の人口比率：約 12%
- 高齢化率：約 31%
- 人口増減率（H22/H12）：約 12%減

出典：平成22年国勢調査  
※( )内は市全体に占める割合

## 2) 地域の現状と課題

- 行政、商業、医療などの生活サービスが受けられる安心して暮らせるまちを維持・形成するための拠点の形成や、地域の特性に配慮した適正な土地利用を図ることにより、暮らし続けられる生活環境・農業環境の確保に取り組む必要があります。
- 日本海に面する沿岸部や中山間地域をもつ本地域では、津波に伴う浸水被害、沿岸部における海岸浸食、新潟県中越沖地震において被災した地域など宅地防災\*が必要な地域の把握などの課題に対応し、安全・安心なまちづくりに取り組むことが必要です。
- 自然資源や観光資源、柿崎総合体育館や柿崎総合運動公園などをいかして、市内外との交流・連携の充実に取り組む必要があります。

### ①土地利用・拠点の現状と課題

- ・本地域では、市街地内には住宅地、工業集積地、流通業務地、商業集積地があります。その外側には農地及び森林が広がっています。今後、生活環境・農業環境の確保や自然環境の保全のため、地域の特性に配慮した適正な土地利用を図る必要があります。
- ・本地域では人口が減少し、高齢化率が約3割と全市平均よりも高くなっています。そのため、田園地域や中山間地域における集落の維持を図るため、農村部において暮らし続けられる生活環境や農業環境の維持に向けて取り組む必要があります。
- ・本地域には、佐渡弥彦米山国定公園及び米山福浦八景県立自然公園、柿崎海岸自然環境保全地域などの自然資源や、柿崎中央海水浴場、柿崎マリンホテルハマナス、柿崎川ダム、ゴルフ場などの観光資源、柿崎総合体育館や柿崎総合運動公園などがあります。これらをいかした交流・連携の充実に図るため、自然環境の保全や観光・文化資源などの保全・活用が引き続き必要です。
- ・本地域には行政機能である総合事務所があり、その周辺に商店、学校などがあります。今後も、行政、商業、医療などの生活サービスが受けられる安心して暮らせるまちを維持するため、日常生活に欠かせない機能が集積する拠点を引き続き形成していくことが必要です。また、本地域において、将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークが必要です。

### ②道路・交通ネットワークの現状と課題

- ・本地域では、既成市街地\*などにおいて安全な道路空間の確保が必要な箇所や未整備の都市計画道路\*があります。
- ・地域住民の日常生活や産業活動を支えるため、また本地域と各拠点の交流・移動を支えるため、国道・県道及び北陸自動車道などの安全・安心な道路ネットワークの確保に取り組むことが必要です。
- ・また、地域内における日常生活を支えるため、地域の実情に配慮して、安全・安心な生活道路\*の確保が必要です。
- ・地域公共交通\*の利用者は減少し、その維持・存続が年々厳しくなっています。今後は、

高齢化の進行により地域公共交通\*を必要とする市民が増加すると推察されることから、日常生活を支える公共交通の維持・確保が重要となります。

- ・また、直江津方面や長岡市・新潟市方面への通勤・通学などの日常的な移動や広域的な交流を支えるとともに、北陸新幹線開業による来訪者の交流を促進するための公共交通の維持・確保が必要です。

### ③安全・安心なまちづくりの現状と課題

- ・本地域の市街地には、都市計画下水道区域が指定されていますが、未整備の箇所が残っています。良好な住環境の形成を推進するため、公共下水道の整備・普及を進めることが必要です。
- ・二級河川\*の吉川、米山川、柿崎川などについては、河川整備や維持管理などの治水対策が引き続き必要です。
- ・津波ハザードマップ\*において、沿岸部の一部が津波発生時の避難対象地域に指定されています。そのため、避難対策について行政と地域住民が一体となった検討が必要です。
- ・災害に強いまちづくりを進めるため、引き続き安全・安心に暮らせる住まいの形成や、災害時の助け合い・避難所の運営を行う自主防災組織\*の編成など、防災・減災対策を検討する必要があります。
- ・空き家については、適正な維持管理が行われず、そのまま放置すれば倒壊など保安上危険となったり、衛生上有害となる恐れが懸念されるため、その対策が必要です。
- ・中山間地域には、土砂災害の危険のある区域が存在することから、行政と地域住民が連携した、土砂災害防止や被害軽減に向けた取組が必要です。
- ・特に、新潟県中越沖地震において被災した地域や過去に大規模な盛土がなされた地域については、行政と地域住民の連携による宅地防災\*の取組が必要です。
- ・本地域の沿岸部にある柿崎中央海水浴場などの海岸において海岸浸食が進んでいます。そのため、海岸浸食の進行などを軽減するための対策が必要です。

### ④都市環境の保全に向けた現状と課題

- ・近年、従来の工場など産業活動に起因する苦情に加えて、住居系の地域で発生する騒音などの苦情や飲食店やサービス業の悪臭苦情など、公害苦情が多様化しています。そのため、生活環境の維持・向上に引き続き取り組む必要があります。





### 3) 本地域が担う役割

『地域拠点を中心に暮らし続けられる地域』や、『工業、農業、観光資源などをいかした交流・連携を図る地域』としての役割を担います。

### 4) 地域づくりの方針

- 柿崎区の中心的エリアにおける行政機能や商業、医療、福祉などの日常生活に欠かせない機能の維持・集積を図るとともに、生活環境や農業環境、自然環境などの維持・確保を進め、将来にわたって暮らし続けられる地域づくりを目指します。
- 津波避難誘導看板の設置やハザードマップ\*などによる周知活動、海岸保全施設の整備促進、自主防災組織\*の支援、宅地造成における取組や防災面を考慮した土地利用などの防災・減災対策に取り組み、安全・安心な暮らしを支える環境の維持・確保を目指します。
- 自然資源や観光資源、柿崎総合体育館や柿崎総合運動公園などの活用により、市内外との交流・連携を支援します。また、幹線道路\*や生活道路\*の適正な維持管理及び整備などに取り組みます。

※中心的エリア：総合事務所周辺

#### ①めりはりのある土地利用の推進

- ・ 住宅を主とする低層低密な住宅地では、ゆとりある良好な住環境の形成の促進に向けた土地利用を推進します。
- ・ 幹線道路\*の沿道では、日常生活を支える店舗や教育施設、交流施設などが身近にある暮らしやすい住環境の形成に向けた土地利用を促進します。
- ・ 工業集積地においては、産業維持の観点から、企業誘致など産業分野の施策との連携により適正な土地利用を進めるとともに、社会経済情勢などの変化を踏まえ、地域のニーズに合った適正な土地利用を検討します。
- ・ 流通業務地においては、北陸自動車道及び一般国道8号に近接する充実した環境をいかし、流通業務系施設の立地を誘導するため、地域のニーズを踏まえて土地利用の面から適切に支援します。
- ・ 流通業務地における市街地の無秩序な拡大を抑制するため、大規模商業施設の立地制限に関する土地利用規制の維持に取り組みます。
- ・ 柿崎駅周辺の商業集積地では、まちのにぎわい創出や市民生活の利便性向上を図るための商業施設などの集積を誘導します。
- ・ 既存の市街地においては、市民が安心して快適に生活できる住環境の形成や、市街地内の低未利用地\*の土地利用の促進を図るため、今後の社会経済情勢の変化や地域のニーズに応じた適正な土地利用を検討します。
- ・ 田園地域では、農業の担い手となる地域住民の暮らしの維持・確保のため、関係分野と連携しながら、優良な農地の維持・保全に向けた適正な土地利用や、農村特有の美

- しく緑豊かな田園景観の維持・保全や自然資源の保全に向けた土地利用を検討します。
- ・ 中山間地域では、農林分野の施策に基づき、農業生産活動が持続的に行われるよう、農地の保全を図るとともに、美しい自然環境が後世に引き継がれるよう、豊かな森林環境の保全を図ります。
- ・ 田園地域及び中山間地域では、集落機能の維持を図るため、様々な施策と連携しながら、一定規模以上の開発の規制誘導や生活基盤の維持に取り組みます。
- ・ 米山を背景に佐渡弥彦米山国定公園・米山福浦八景県立自然公園に広がる森林資源及び優良な水源、柿崎海岸自然環境保全地域などの様々な自然資源の活用や、柿崎中央海水浴場、柿崎マリンホテルハマナス、柿崎川ダム、ゴルフ場などの観光資源、柿崎総合体育館や柿崎総合運動公園などの活用により、市内外との交流・連携を都市計画の面から支援します。
- ・ 安全・安心な暮らしを確保するため、行政と地域住民が連携しながら、土砂災害、洪水、なだれなどに対する防災面を考慮して、森林の保全や土地利用の規制・誘導を検討します。

#### ②拠点の形成

- ・ 柿崎区の中心的エリアにおいては、日常生活に欠かせない機能や、周辺の拠点を支える機能の維持・集積を図るとともに、地区内の集落や地区外からの交通アクセスを確保し、交流や連携が図られる拠点を目指します。
- ・ 将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。

#### ③道路ネットワークの確保

- ・ 本地域と各地域を結ぶ国道・県道については、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所の改善に向けた道路整備を促進します。
- ・ 地域内の生活道路\*では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組みます。
- ・ 本地域と隣接地域を連絡する幹線道路網及び市街地内の生活道路網の形成を図るため、社会経済情勢の変化や地域の実情に応じて、関係機関と連携しながら都市計画道路\*の整備に努めます。
- ・ 長期にわたって未着手となっている都市計画道路\*は、路線の必要性や事業の実現性を検証し、適正な見直しを検討します。

#### ④公共交通ネットワークの確保

- ・ これまでの鉄道や路線バスなどの地域公共交通\*を基本としながら、人口減少や少子高齢化など社会経済情勢の変化や地域の実情を踏まえ、路線の統合や経路、ダイヤの見直しなどにより、地域公共交通\*を維持・確保します。

- ・鉄道については、利用者のニーズ（移動需要）を踏まえた運行本数やダイヤ設定、強風対策などを働きかけます。

#### ⑤安全・安心な暮らしを支える基盤の形成

- ・生活環境の改善や河川の水質汚濁防止を図るため、また集中豪雨などに伴う浸水被害を軽減するため、下水道（汚水・雨水）の整備を推進します。
- ・また、都市計画区域\*と都市計画下水道との整合について検討します。
- ・県により管理される二級河川\*の吉川、米山川、柿崎川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川\*や雨水幹線\*などについても適正な維持管理を推進します。
- ・津波から人命を守る観点から、津波発生時の避難対象地域においては、避難場所表示や津波避難誘導看板の設置、ハザードマップ\*などによる周知活動を図ります。
- ・木造建物の耐震化、克雪住宅\*の普及による耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、行政と地域住民が連携しながら、避難場所となる身近な公園・広場や、避難路となる生活道路\*の確保を検討します。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織\*の結成及び活動を支援します。
- ・放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適切な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。
- ・土砂災害が生じる恐れのある区域では、行政と地域住民が連携した土砂災害防止や被害軽減に向けた取組を検討します。
- ・災害発生時に滑動・崩落の危険性が高い大規模盛土造成地についての調査や、必要に応じた対策を検討するとともに、的確なリスク情報開示などに継続して取り組みます。
- ・沿岸部の海岸浸食への対策として、海浜地の海岸保全施設の整備を促進します。

#### ⑥都市環境の保全

- ・産業活動に起因する騒音などの公害を防止し、生活環境の維持・向上を図るため、周辺と調和した適正な土地利用を検討するなど、必要に応じて都市計画の面から支援します。
- ・また、生活環境の維持・向上、市街地や幹線道路沿道などでの景観の形成、防災面における安全性の向上、二酸化炭素の吸収などの環境負荷低減などのため、関係分野と連携しながら、公園緑地や街路樹などの緑地空間の保全・維持管理を推進します。
- ・海岸部特有の飛砂による被害の防止に向けて、関係分野と連携しながら松林などの飛砂防備保安林の保全・維持管理を推進します。

# 地域づくりの方針図 柿崎地域

**凡例**

<b>土地利用</b>	住宅を主とする低層低密な住宅地	生活利便施設混在型住宅地(中高層)	生活利便施設混在型住宅地
<b>市街地</b>	沿道商業混在型住宅地	商業混在型高層住宅地	工業集積地
	商業集積地	流通業務地	港湾業務地
	田園地域	生活利便商業集積地(一部、沿道商業混在型住宅地を含む)	工業団地
	都市計画区域	中山間地域	その他の施設
<b>その他</b>	河川	景観づくり重点区域	市役所・総合事務所
	自然環境保全地域	水道水源保護地域	小・中学校・高等学校・中等教育学校
			病院

**公園**

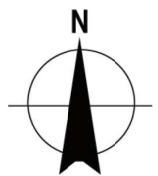
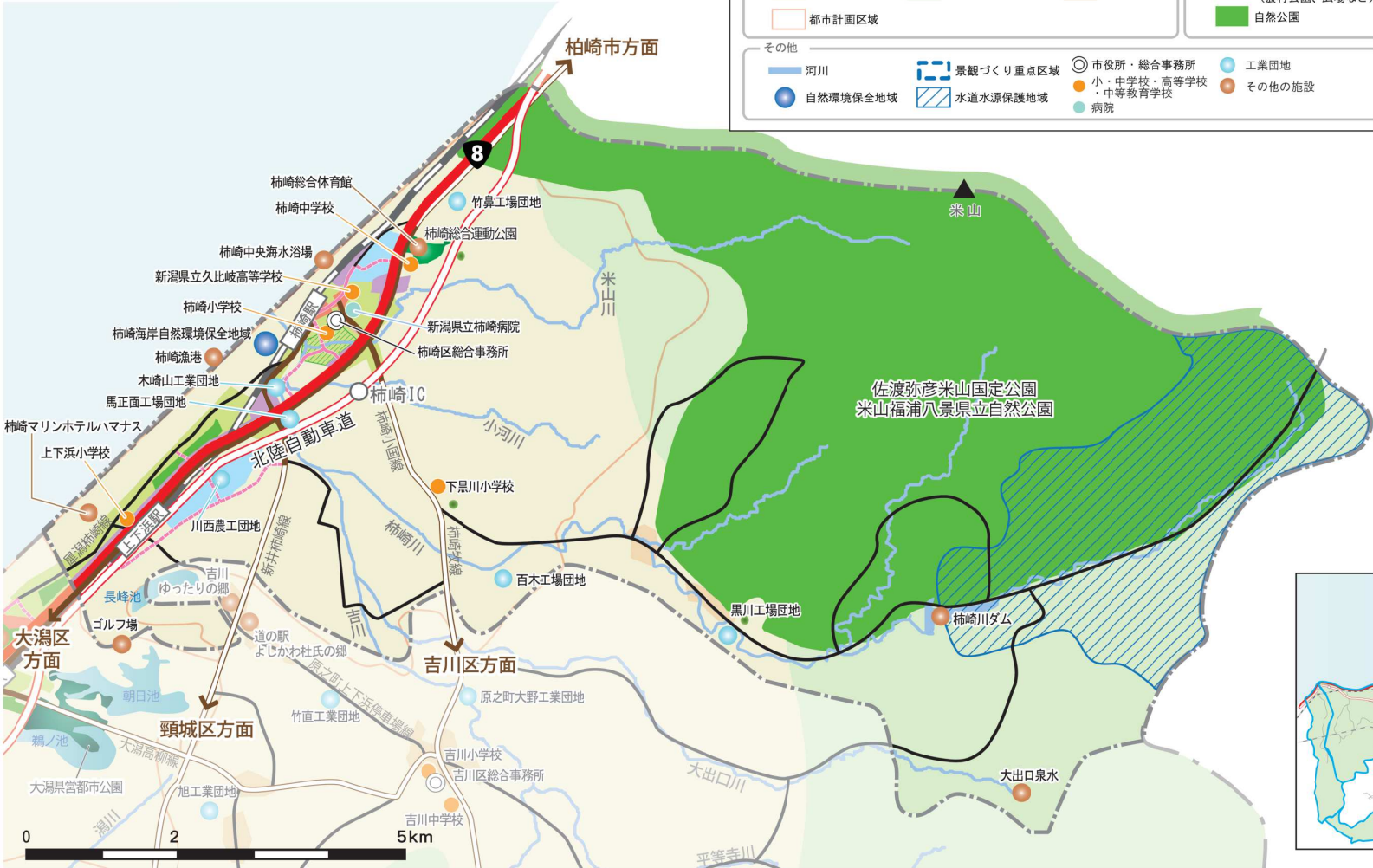
都市公園	広域公園総合公園	運動公園	特殊公園
	地区公園・近隣公園	街区公園	その他の公園(農村公園、広場など)
			自然公園

**交通ネットワーク**

広域	高速道路	高規格道路	主要な幹線道路
拠点間	都市計画道路	都市計画道路以外	都市計画道路
区内	その他幹線道路		

※実線は現状  
点線は計画・構想

— 鉄道  
— 新幹線  
○ IC





### 3 中郷地域

#### 1) 地域の概要

##### ①位置及び都市計画上の位置づけ

- ・中郷地域は、上越市の南部、妙高市（旧新井市）の南側に位置し、本地域内を流れる一級河川片貝川、渋江川沿川を中心に集落が形成された地域です。
- ・本地域は、平成 10 年 4 月に新井都市計画区域として当初編入指定され、平成 22 年 3 月に新井都市計画区域と妙高高原都市計画区域が統合し現在の妙高都市計画区域（非線引き\*：市街化区域\*と市街化調整区域\*の区域区分を行わない区域）が指定されました。現在も本地域の一部が妙高都市計画区域に含まれ、西側の山岳地は都市計画区域外になっています。

##### ②まちの変遷

- ・本地域は、鎌倉時代に直江津府中と信濃府中を結ぶ北国街道の宿場として栄え、年間を通じて水に恵まれ稲作に適した地域として発展し、各地との交流も盛んでした。
- ・大正時代には大規模な工場が創設され、本地域の基幹産業が第 2 次産業へ変化しました。また昭和初期に松ヶ峯温泉が開湯されました。

##### ③交通ネットワーク

- ・本地域には、上信越自動車道、一般国道 18 号が地域の東側を縦貫しており、妙高市・長野県方面などとの交流・連携を支える広域ネットワークとして重要な路線となっています。
- ・本地域と周辺地域をつなぐ主な道路として、一般国道 18 号上新バイパス、一般県道坂本新田新井線、一般県道新井中郷線が通っています。これらの道路は、本地域と各拠点間、妙高市との交流・連携を支える幹線道路\*として、地域住民の日常生活や産業振興などを支える重要な路線となっています。
- ・また、本地域には、上信越自動車道中郷インターチェンジが配置され、本地域と市内外をつなぐ結節点として機能しています。
- ・本地域には、えちごトキめき鉄道妙高はねうまラインの二本木駅があり、直江津方面や妙高市・長野県方面を連絡しています。二本木駅は旧 JR 信越本線で唯一のスイッチバック駅です。また隣接する工場の専用線を有し貨物駅として機能した時期もありました。
- ・本地域には、乗合タクシー\*が運行しており、妙高市（旧新井市、関山）方面を連絡しています。

##### ④地域資源

- ・本地域には、妙高山を背景とする豊かな自然環境が広がっています。

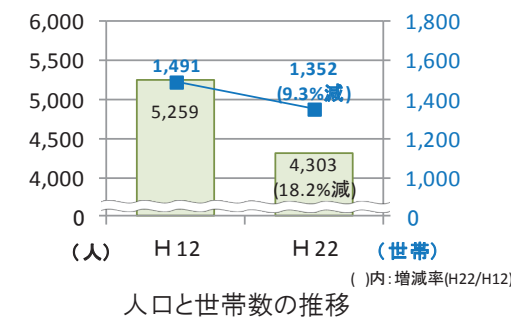
- ・二本木駅西側には 1920 年に操業を開始した大規模な工場が立地し、医薬品原料など特色ある製品を直江津港から海外に向けて輸出しており、地域において欠かせない雇用の場となっています。
- ・本地域には、コンサートなどが楽しめる広々としたホールや研修室、和室、創作室、学習室、陶芸工房などの研修交流施設を備えるはーとびあ中郷があります。
- ・本地域には、縄文時代の遺跡に多く見られる同心円状の空間をイメージして造られている泉縄文公園があります。また、恵まれた自然環境をいかしたゴルフ場、レジャー施設など集客性のある施設があります。



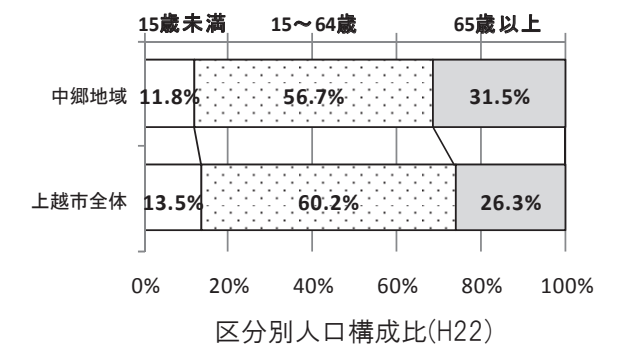
松ヶ峯周辺の桜と妙高山



泉縄文公園



人口と世帯数の推移



区分別人口構成比(H22)

#### 中郷地域に関するデータ

- 総面積：約 44 km<sup>2</sup>（約 4%）
- 総人口：4,303 人（約 2%）
- 世帯数：1,352 世帯（約 2%）
- 15 歳未満の人口比率：約 12%
- 高齢化率：約 32%
- 人口増減率（H22/H12）：約 18%減

出典：平成 22 年国勢調査  
※( )内は市全体に占める割合



## 2) 地域の現状と課題

- 行政、商業、医療などの生活サービスが受けられる安心して暮らせるまちを維持・形成するための拠点の形成や、地域の特性に配慮した適正な土地利用を図ることにより、暮らし続けられる生活環境の維持に取り組む必要があります。
- 本地域では、土砂災害の危険がある区域が存在することから、安全・安心なまちづくりに取り組むことが必要です。
- 自然資源や研修交流施設、泉縄文公園、ゴルフ場、レジャー施設などの観光資源をいかして、市内外との交流・連携の充実に取り組む必要があります。

### ①土地利用・拠点の現状と課題

- ・本地域では、幹線道路沿道に集落、農地、工場、観光・レジャー施設などが立地していることから、自然環境や農地の保全や地域の活力を維持するため、地域の特性に配慮した適正な土地利用を図る必要があります。
- ・また、本地域では、人口が減少し、高齢化率が約3割と全市平均よりも高くなっています。そのため、集落の維持を図るため、生活環境の維持に向けて取り組む必要があります。
- ・本地域には、豊かな森林などの自然資源や、はとびあ中郷などの研修交流施設や泉縄文公園、ゴルフ場・レジャー施設などの観光資源などがあります。これらをいかした交流・連携の充実に図るため、自然環境の保全や観光資源などの保全・活用が引き続き必要です。
- ・本地域の一部は、妙高都市計画区域に含まれています。そのため、妙高市との連携による土地利用の検討や調整が必要です。
- ・本地域には、事業所の集積も高く、その周辺に行政、文化、スポーツ施設、商店、福祉施設などがあります。今後も、行政、商業、医療などの生活サービスが受けられる安心して暮らせるまちを維持するため、日常生活に欠かせない機能が集積する拠点を引き続き維持していくことが必要です。また、将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークが必要です。

### ②道路・交通ネットワークの現状と課題

- ・本地域から妙高市・長野県方面などとの移動や交流・連携を支える広域ネットワークの強化のため、上信越自動車道の4車線化整備の促進が必要です。
- ・地域住民の日常生活や産業活動を支えるため、また本地域と各拠点、妙高市（旧新井市）の交流・移動を支えるため、国道・県道などの安全・安心な道路ネットワークの確保に取り組むことが必要です。
- ・また、地域内における日常生活を支えるため、地域の実情に配慮して、安全・安心な生活道路\*の維持が必要です。
- ・地域公共交通\*の利用者は減少し、その維持・存続が年々厳しくなっています。今後は、

高齢化の進行により地域公共交通\*を必要とする市民が増加すると推察されることから、日常生活を支える公共交通の維持・確保が重要となります。

- ・また、直江津方面や妙高市・長野県方面への通勤・通学などの日常的な移動や広域的な交流を支えるとともに、北陸新幹線開業による来訪者の交流を促進するための公共交通の維持・確保が必要です。

### ③安全・安心なまちづくりの現状と課題

- ・一級河川\*の片貝川、渋江川などについては、河川の維持管理などによる治水対策が引き続き必要です。
- ・中山間地域には、土砂災害の危険がある区域が存在することから、行政と地域住民が連携した、土砂災害防止や被害軽減に向けた取組が必要です。
- ・災害に強いまちづくりを進めるため、引き続き安全・安心に暮らせる住まいの形成や、災害時の助け合い・避難所の運営を行う自主防災組織\*の編成など、防災・減災対策を検討する必要があります。
- ・空き家については、適正な維持管理が行われず、そのまま放置すれば倒壊など保安上危険となったり、衛生上有害となる恐れが懸念されるため、その対策が必要です。



### 3) 本地域が担う役割

『妙高山を背景に豊かな自然と共生する集落の暮らしが続けられる地域』や、『産業、観光資源などをいかした交流・連携を図る地域』としての役割を担います。

### 4) 地域づくりの方針

- 中郷区の中心的エリアにおける行政機能や商業、医療などの日常生活に欠かせない機能を維持するとともに、生活環境や自然環境などの維持・確保を進め、将来にわたって暮らし続けられる地域づくりを目指します。
- 河川の適正な維持管理、土砂災害防止や被害軽減に向けた取組、自主防災組織\*の支援などの防災・減災対策に取り組み、安全・安心な暮らしを支える環境の維持・確保を目指します。
- 研修交流施設、泉縄文公園、ゴルフ場、レジャー施設などの活用により、市内外との交流・連携を支援します。また、上信越自動車道の4車線化の促進に取り組むとともに、幹線道路\*や生活道路\*の適正な維持管理及び整備などに取り組みます。

※中心的エリア：総合事務所周辺

#### ①めりはりのある土地利用の推進

- ・本地域内にある居住地、工業地、農地、観光・レジャー施設、森林などの現在の配置を踏まえつつ、暮らしやすい住環境を維持するため、関係分野と連携しながら、適正な土地利用を目指します。
- ・集落機能の維持を図るため、様々な施策と連携しながら、一定規模以上の開発の規制誘導や生活基盤の維持に取り組みます。
- ・農林分野の施策に基づき、農業生産活動が持続的に行われるよう、農地の保全を図るとともに、美しい自然環境が後世に引き継がれるよう、豊かな森林環境の保全を図ります。
- ・はとびあ中郷などの研修交流施設や泉縄文公園、ゴルフ場、レジャー施設などの観光資源などの活用により、市内外との交流・連携を都市計画の面から支援します。
- ・安全・安心な暮らしを確保するため、行政と地域住民が連携しながら、土砂災害、洪水、なだれなどに対する防災面を考慮して、森林の保全や土地利用の規制・誘導を検討します。
- ・本地域の一部が妙高都市計画区域に含まれることから、新潟県が定める広域都市計画マスタープランを踏まえ、妙高市と連携を図りながら土地利用を進めます。

#### ②拠点の形成

- ・中郷区の中心的エリアにおいては、日常生活を支える拠点の形成や日常生活に欠かせない機能の維持・集積を図るとともに、地区内の集落や地区外からの交通アクセスを確保し、交流や連携が図られる拠点を目指します。

- ・将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点や妙高市との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。

#### ③道路ネットワークの確保

- ・市内外との広域的な移動と交流・連携を支える広域ネットワークの形成のため、上信越自動車道の4車線化の早期実現を働きかけます。
- ・本地域と市内各地域及び妙高市の中心市街地を結ぶ国道・県道については、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所の改善に向けた道路整備を促進します。
- ・地域内の生活道路\*では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組みます。

#### ④公共交通ネットワークの確保

- ・これまでの鉄道や乗合タクシー\*などの地域公共交通\*を基本としながら、人口減少や少子高齢化など社会経済情勢の変化や地域の実情を踏まえ、乗合タクシー\*の利便性向上や運行の見直しなどにより、地域公共交通\*を維持・確保します。
- ・鉄道については、利用者のニーズ（移動需要）を踏まえた運行本数やダイヤ設定などを働きかけます。

#### ⑤安全・安心な暮らしを支える基盤の形成

- ・県により管理される一級河川\*の片貝川、渋江川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川\*などについても適正な維持管理を推進します。
- ・土砂災害が生じる恐れのある区域では、行政と地域住民が連携した土砂災害防止や被害軽減に向けた取組を検討します。
- ・木造建物の耐震化、克雪住宅\*の普及による耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、行政と地域住民が連携しながら、避難場所となる身近な公園・広場や、避難路となる生活道路\*の確保に努めます。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織\*の結成及び活動を支援します。
- ・放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適正な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。



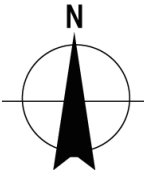
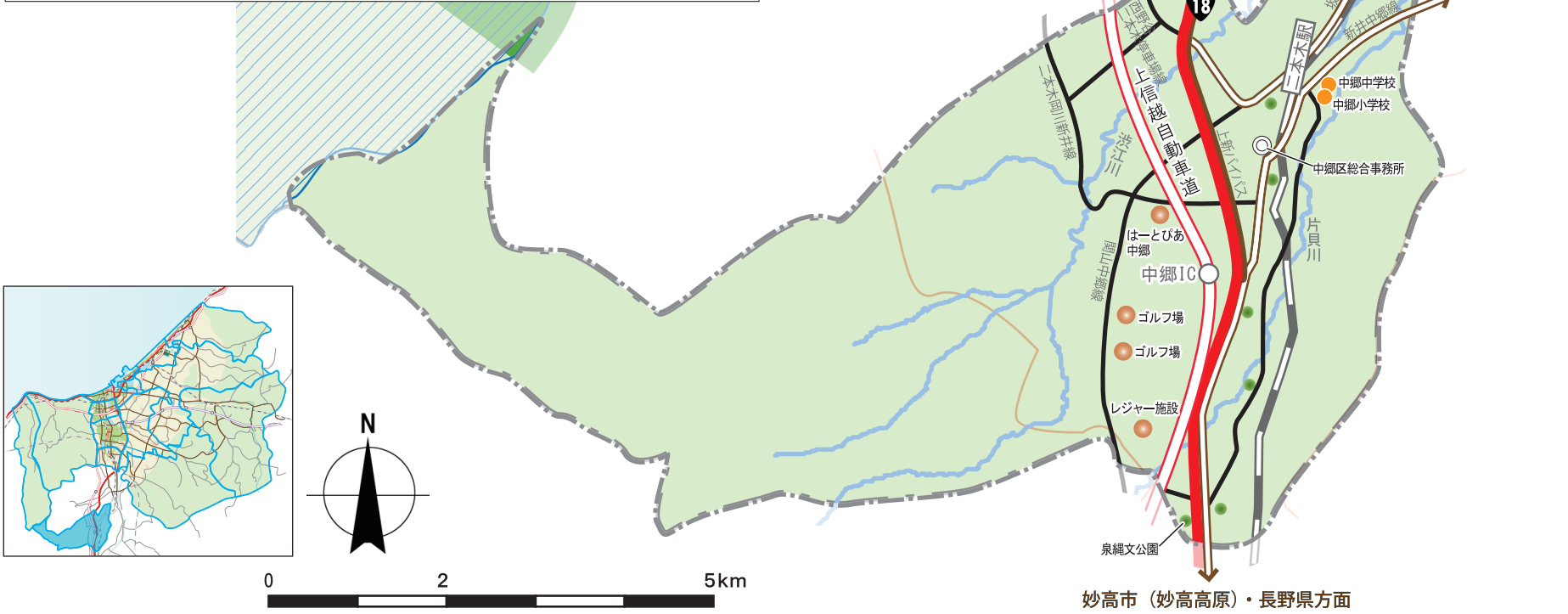
# 地域づくりの方針図 中郷地域

**凡例**

<b>土地利用</b>	<b>公園</b>	<b>交通ネットワーク</b>
田園地域	広域公園 総合公園	高速道路
集落	運動公園	高規格道路
	特殊公園	主要な幹線道路
<b>その他</b>	地区公園・近隣公園	都市計画道路
河川	街区公園	都市計画道路以外
自然環境保全地域	その他の公園 (農村公園、広場など)	都市計画道路
水道水源保護地域	自然公園	その他幹線道路
市役所・総合事務所		※実線は現状 点線は計画・構想
工業団地		鉄道
小・中学校・高等学校 中等教育学校		新幹線
病院		駅
		IC

**道路ネットワーク**

- 広域
- 拠点間
- 地区内





第4章

地域別構想

3 中郷地域

## 4 頸城（東部）・吉川・三和地域

### 1) 地域の概要

#### ①位置及び都市計画上の位置づけ

- ・頸城（東部）・吉川・三和地域は、上越市の北東部に位置し、主に田園地域である頸城区（東部）・三和区、田園地域と中山間地域である吉川区の地域です。
- ・本地域は全域が都市計画区域外になっています。

#### ②まちの変遷

- ・頸城区（東部）は、江戸時代から用水路などの整備を進め、優良な農地を築いてきました。近年では、農業経営の大規模化が進むとともに、農業の効率化を図っています。
- ・吉川区は、稲作を中心とした農業を主体として発展しました。また、冬季の酒造出稼ぎ者が多く、特に杜氏を多く輩出したことで知られています。
- ・三和区は、江戸時代には三和区の大部分が天領地となり代官所が置かれ、稲作を中心とした農業を基幹産業としています。近年は農業経営の大規模化が進むとともに、新たな産業育成や人口増加対策として、工業団地や住宅団地の造成が行われてきました。

#### ③交通ネットワーク

- ・本地域と周辺地域をつなぐ主な道路として、主要地方道新井柿崎線、主要地方道柿崎牧線、主要地方道上越頸城大潟線が南北に縦断しており、また主要地方道大潟高柳線、一般県道浦川原犀潟停車場線、主要地方道上越安塚柏崎線、主要地方道上越安塚浦川原線が東西を横断しています。これらの道路は、本地域と各拠点間との交流・連携を支える幹線道路\*として、地域住民の日常生活や産業振興などを支える重要な路線となっています。
- ・一般国道 253 号は、合併前上越市と魚沼方面などとの交流・連携を支える広域ネットワークとして重要な路線となっています。
- ・また、合併前上越市と魚沼方面を結ぶ上越魚沼地域振興快速道路\*が計画され、主要地方道新井柿崎線から（仮称）三和インターチェンジへ接続することになっています。
- ・本地域には、北越急行ほくほく線のくびき駅・大池いこいの森駅があり、直江津方面や十日町市・湯沢町方面を連絡しています。
- ・本地域には、路線バスが運行しており、増田線や岡田線や真砂線が高田方面を連絡しています。このほか、路線バス（一部、デマンド運行区間を含む）や頸城区地域巡回バス、市営有償運行バス（スクール混乗バス\*）が運行しており、地域内及びくびき駅や黒井駅や上下浜駅を連絡しています。

#### ④地域資源

- ・田園地域には、一面に広がる農地、屋敷林に囲まれた集落、新潟県景勝百選である大

池いこいの森、自然環境保全地域に指定されている谷内池などの自然資源、道の駅よしかわ杜氏の郷、酒をテーマとした坂口記念館、軽便鉄道・蒸気機関車が保存されているくびき野レールパーク、温泉温浴施設（吉川スカイトピア遊ランド、吉川ゆったりの郷、三和ネイチャーリングホテル米本陣）などの観光・文化資源があります。

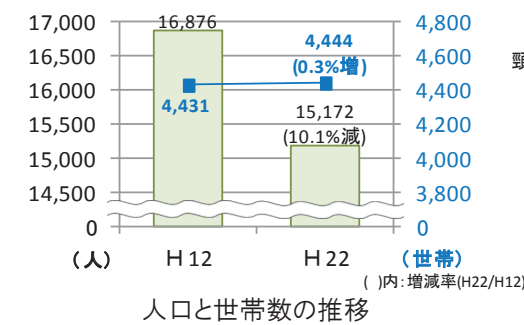
- ・また、多目的ホールや機能回復室、トレーニングルーム、生活工房、会議室、研修室や屋外施設などの研修交流施設を備えるユートピアくびきがあります。
- ・中山間地域には、豊かな森林、農地、尾神岳などの自然資源のほか、尾神岳にはハイキングやスカイスポーツなどの自然をいかしたレジャー体験を提供する観光資源などがあります。



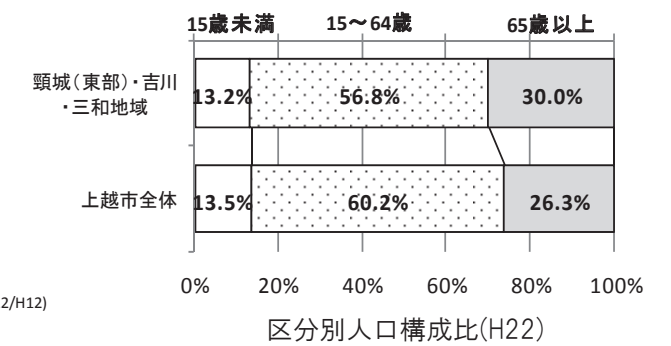
大規模な優良農地



レジャーや自然環境のある尾神岳



人口と世帯数の推移



区分別人口構成比(H22)

#### 頸城(東部)・吉川・三和地域に関するデータ

- 総面積：約 147 km<sup>2</sup> (約 15%)
- 総人口：15,172 人 (約 7%)
- 世帯数：4,444 世帯 (約 6%)
- 15歳未満の人口比率：約 13%
- 高齢化率：約 30%
- 人口増減率 (H22/H12)：約 10%減

出典：平成 22 年国勢調査に基づき集計  
※( )内は市全体に占める割合



## 2) 地域の現状と課題

- 行政、商業、医療などの生活サービスが受けられる安心して暮らせるまちを維持・形成するための拠点の形成や、地域の特性に配慮した適正な土地利用を図ることにより、暮らし続けられる生活環境の維持に取り組む必要があります。
- 将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークが必要です。
- 上越魚沼地域振興快速道路\*の整備促進や、自然資源、観光・文化資源にみがきをかけて、市内外との交流・連携の充実に取り組む必要があります。

### ①土地利用・拠点の現状と課題

- ・本地域では、工業団地、観光施設などの施設が立地しています。また中山間地域には緑豊かな森林が広がり、農地や集落、観光施設などが点在しています。今後、自然環境や農地の保全や地域の活力を維持するため、地域の特性に配慮した適正な土地利用を図る必要があります。
- ・本地域では人口が減少し、高齢化率が約3割と全市平均よりも高くなっています。そのため、田園地域では、一帯に広がる優良な農地や暮らし続けられる生活環境、地域の基幹産業である農業を守り、定住を促進するなど集落の維持に向けて取り組む必要があります。
- ・また、中山間地域では、集落の維持を図るため、生活環境の維持に向けて取り組む必要があります。
- ・本地域には、豊かな森林、農地、尾神岳、大池いこいの森、谷内池自然環境保全地域などの自然資源や、道の駅よしかわ杜氏の郷、坂口記念館、くびき野レールパーク、温泉温浴施設などの観光・文化資源、研修交流施設であるユートピアくびきがあります。これらをいかした交流・連携の充実に図るため、自然環境の保全や観光・文化資源などの保全・活用が引き続き必要です。
- ・本地域の頸城区、吉川区、三和区のそれぞれに行政機能がある総合事務所があり、その周辺に福祉施設、学校、医療機関、事業所などがあります。今後も、行政、商業、医療などの生活サービスが受けられる安心して暮らせるまちを維持するため、日常生活に欠かせない機能が集積する拠点を引き続き維持していくことが必要です。また、本地域において、将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークが必要です。

### ②道路・交通ネットワークの現状と課題

- ・本地域から合併前上越市や魚沼方面との移動や交流・連携を支える広域ネットワークの強化や救急医療体制の充実に図るため、上越魚沼地域振興快速道路\*の整備促進が必要です。
- ・地域住民の日常生活や産業活動を支えるため、また本地域と各拠点の交流・移動を支えるため、国道・県道などの安全・安心な道路ネットワークの確保に取り組むことが

必要です。

- ・また、地域内における日常生活を支えるため、地域の実情に配慮して、安全・安心な生活道路\*の維持が必要です。
- ・地域公共交通\*の利用者は減少し、その維持・存続が年々厳しくなっています。今後は、高齢化の進行により地域公共交通\*を必要とする市民が増加すると推察されることから、日常生活を支える公共交通の維持・確保が重要となります。
- ・また、直江津方面や十日町市・湯沢町方面への通勤・通学などの日常的な移動や、北陸新幹線や上越新幹線を活用する広域的な人の交流を促進するため、公共交通の維持・確保が必要です。

### ③安全・安心なまちづくりの現状と課題

- ・一級河川\*の保倉川、桑曾根川、二級河川\*の吉川などについては、河川の維持管理などによる治水対策が引き続き必要です。
- ・吉川区及び三和区には、土砂災害の危険がある区域が存在することから、行政と地域住民が連携した、土砂災害防止や被害軽減に向けた取組が必要です。
- ・災害に強いまちづくりを進めるため、引き続き安全・安心に暮らせる住まいの形成や、災害時の助け合い・避難所の運営を行う自主防災組織\*の編成など、防災・減災対策を検討する必要があります。
- ・空き家については、適正な維持管理が行われず、そのまま放置すれば倒壊など保安上危険となったり、衛生上有害となる恐れが懸念されるため、その対策が必要です。



### 3) 本地域が担う役割

『豊かな田園・自然と共生する集落の暮らしが続けられる地域』や、『自然、農業、観光・文化資源などをいかした交流・連携を図る地域』としての役割を担います。

### 4) 地域づくりの方針

- 頸城区、吉川区、三和区の中心的エリアにおける行政機能や商業、医療などの日常生活に欠かせない機能を維持するとともに、生活環境や農業環境、自然環境などの維持・確保を進め、将来にわたって暮らし続けられる地域づくりを目指します。
- 将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。また、上越魚沼地域振興快速道路\*の整備促進に取り組むとともに、幹線道路\*や生活道路\*の適正な維持管理及び整備などに取り組みます。
- 自然資源や観光・文化資源などの活用により、市内外との交流・連携を支援します。

※中心的エリア：総合事務所周辺

#### ①めりはりのある土地利用の推進

- ・本地域内にある居住地、農地、工業地、森林などの現在の配置を踏まえつつ、暮らしやすい住環境を維持するため、関係分野と連携しながら、適正な土地利用を検討します。
- ・集落機能の維持を図るため、様々な施策と連携しながら、一定規模以上の開発の規制誘導や生活基盤の維持に取り組みます。
- ・田園地域では、農業の担い手となる地域住民の暮らしの維持・確保のため、関係分野と連携しながら、優良な農地の維持・保全に向けた適正な土地利用や、農村特有の美しく緑豊かな田園景観の維持・保全や自然資源の保全に向けた土地利用を検討します。
- ・中山間地域では、農林分野の施策に基づき、農業生産活動が持続的に行われるよう、農地の保全を図るとともに、美しい自然環境が後世に引き継がれるよう、豊かな森林環境の保全を図ります。
- ・地域住民が身近に自然と親しむことができる尾神岳、大池いこいの森、谷内池自然環境保全地域などの様々な自然資源の活用や、道の駅よしかわ杜氏の郷、坂口記念館、くびき野レールパーク、温泉温浴施設などの観光・文化資源、ユートピアくびきなどの研修交流施設の活用により、市内外との交流・連携を支援します。
- ・安全・安心な暮らしを確保するため、行政と地域住民が連携しながら、土砂災害、洪水、なだれなどに対する防災面を考慮して、森林の保全や土地利用の規制・誘導を検討します。

#### ②拠点の形成

- ・頸城区、吉川区、三和区の中心的エリアにおいては、日常生活を支える拠点の形成や

日常生活に欠かせない機能の維持・集積を図るとともに、地区内の集落や地区外からの交通アクセスを確保し、交流や連携が図られる拠点を目指します。

- ・将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。

#### ③道路ネットワークの確保

- ・各拠点との連携を強化するため、また広域的な交流と救急医療体制の充実を図るため、上越魚沼地域振興快速道路\*及びその周辺道路の整備を促進します。
- ・本地域と各地域を結ぶ国道・県道については、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所の改善に向けた道路整備を促進します。
- ・地域内の生活道路\*では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組めます。

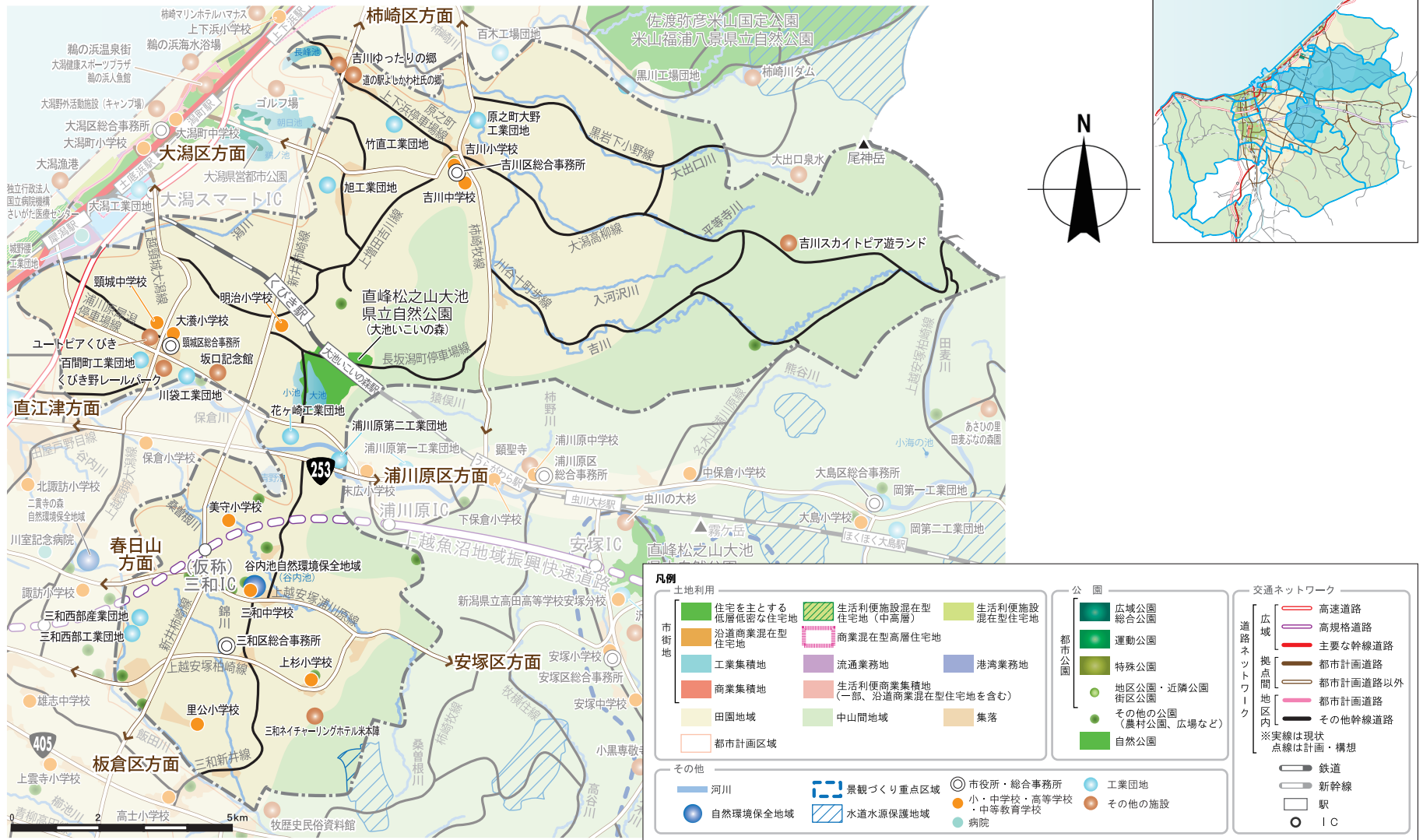
#### ④公共交通ネットワークの確保

- ・これまでの鉄道や路線バス、スクール混乗バス\*などの地域公共交通\*を基本としながら、人口減少や少子高齢化など社会経済情勢の変化や地域の実情を踏まえ、重複区間などでの路線の再編成や交通不便地域の解消、利用状況に応じた運行内容の見直し、需要に見合った新たな地域公共交通\*の導入などにより、地域公共交通\*を維持・確保します。
- ・鉄道については、利用者のニーズ（移動需要）を踏まえた運行本数やダイヤ設定、及び越後湯沢駅における上越新幹線との乗り換えがスムーズに行えるダイヤ設定などを働きかけます。
- ・ほくほく線から信越本線、上越妙高駅への直通運転及び黒井駅停車の維持・増便を働きかけます。

#### ⑤安全・安心な暮らしを支える基盤の形成

- ・県により管理される一級河川\*の保倉川、桑曾根川、二級河川\*の吉川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川\*などについても適正な維持管理を推進します。
- ・土砂災害が生じる恐れのある区域では、行政と地域住民が連携した土砂災害防止や被害軽減に向けた取組を検討します。
- ・木造建物の耐震化、克雪住宅\*の普及による耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、行政と地域住民が連携しながら、避難場所となる身近な公園・広場や、避難路となる生活道路\*の確保などを検討します。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織\*の結成及び活動を支援します。
- ・放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適正な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。

# 地域づくりの方針図 頸城（東部）・吉川・三和地域







第4章

地域別構想

4 頸城(東部)・吉川・三和地域